

令和 7年度 園評価書

園番号 10 園名 中薬科こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A:よくできている B:概ねできている、C:あまりできていない、D:できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員会から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
自分が好き！ 友だちが好き！ 薬科が好き！	自分で考えて、決めていく！	子ども達が自分で決めていける環境と機会が用意されている	自分で考える機会を作るよう意識している。保育室内ではコーナーを作り、遊びを選択できるようにした。また、取り出しやすく、片づけがしやすいよう外倉庫の玩具の配置を変えるが、園庭の玩具の数、種類が豊富なため精査が必要である	B	A	・遊びマップや図、絵などイメージがわくものを使用していることは良い→子ども達の思考の整理ができる	・季節(春夏秋冬)毎に環境について話し合いを行う ・お互いの部屋を見合う機会を設ける ・環境整備の時間を確保する(朝と振り返り後) ・保育者も子どもと一緒にじっくり遊び、保育者も試行錯誤していく
	～見る・聞く・試す～	友だちと一緒に試行錯誤できる関りを考えた保育が展開されている	保育者も遊びの一員となって子どもと一緒に考えたり、遊んだりしている。異年齢の関わりが多い一方で各学年の遊びや活動が保障されていない。振り返りの中で試行錯誤している場面を取り上げた話し合いができるようにしていきたい	B	B	・写真や動画を置いて子ども達の姿を共有するのは良い手立てだと思う ・少人数で職員が様々なことが見えすぎてしまうため課題点が多く見えてしまうのではないか。子どもが伸びているなら評価を上げても良いと思う	・遊びマップを活用し、経験させたいことや育ちつつある姿を踏まえて、遊びの様子を共有する ・写真動画を使い、子どもの興味・関心や保育教諭の関わり方等について振り返りで話し合う機会を設ける ・遊びが見つけられない子への手立てを全職員で考える(ケース討議)
		子ども達が身近な環境に自分から関わり、考えたり試したりする姿がある	庭材を常設している。朝の遊び出しの環境を整えている。経験が少なく、身近な環境に自ら関わることに自信がない子もいる。室内環境を職員皆で見合う機会が少ない	B	B		

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員会から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	個人差を考慮し、一人ひとりの発達や興味関心に合わせた教育・保育をしている	個人差を考え少人数だからできる対応を意識し、子どもの仕草や表情などから気持ちを汲み取り配慮している。子どもの姿の共有を図り環境を用意するためにも、振り返りをもう少し活用できるようにする必要がある	B	A		・各クラスの週案や手立て、振り返りを共有したり、教育課程を期ごとに振り返ったりしていく中で保育の方向性を確認していく
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	個々の育ちや生活リズムに合わせ、安心して園生活が送れるようにしている	家庭と園が連携を取り、一人一人の生活リズムを考慮しながら、子どもが安心して過ごせる場所づくりを心掛けている 保育の流れや子どもの状況等を伝え合い年齢に応じたゆったりとした関わりができることよい	B	A		・クラス、学年、乳児と幼児など協力体制の取り方を再確認し、連携をとっていく ・多くの職員が関われる良さを生かしながら週3回の振り返りを有効に活用し、子どもの姿を共有していく
	(3)環境を通して行う教育及び保育	子どもの気付きや試行錯誤する姿を捉え環境の構成をしている	子どもが考え選択する機会の保障や、子どもの興味や前日の遊び等に合わせた環境づくりを心掛けた。園庭の環境作りが不十分な面がある。玩具の量や種類、スペースの使い方、とつき棚等意図を持った構成と発信に課題がある	B	B	・園で子ども達の遊びのモデルがないことについて→小学校も少人数のため、モデルがない。ワークを手立てとして授業でワークを仕掛けるようにしている。面白いモデルは必要だし遊び出しは職員が関わっていく必要がある	・四季に合わせた園庭環境について話し合う場をしっかり作っていく ・子どもがじっくり遊んでいるかを常に見取り、それに合わせた環境作りを継続して進める
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	子どもたち自身が、安全に気を付ける意識が持てるような体験や指導の機会を設け、命の大切さを伝えている	減災教育を職員が学び、子ども達と共有したことで、子ども自身がどのように避難したらよいか、危険が少ない場所はどこかを考えて行動するようになっている。ヒヤリハットを共有しているが、職員の安全管理意識の薄さから起こる怪我を減らしていくようにしたい	B	A		・出した常時ヒヤリハットを事務室に掲示し、見える化をして日常的に意識できるようにする ・毎月の避難訓練で出た課題は乳児・幼児で分かれて具体的な改善策を出し、会議で共有する
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	食育活動を通して健康に関心を持ったり、手洗いや鼻をかむなどが習慣づくよう日々取り組んでいる	食育活動、栽培を通して季節や身近な食材に興味を持ってよう工夫している。基本的な生活習慣(手洗い・鼻をかむ・毎日ハンカチを持つてくる)について伝える機会が少ない	B	B		・手洗いうがいの大切さなどを子ども達に伝える機会(紙芝居、絵本等)を作る。また、保護者にも発信していき、ハンカチを持つてくる等の習慣が身に付くよう連携していく
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	発達にあった支援方法を職員間で共有し、自分の力で出来ることが増えていけるよう支援している	打合せや振り返り等の時間を利用し、子どもの姿や関わり方等を共有している。支援児に対してのサポートの仕方が共有されていない部分がある。また振り返り等の内容が十分伝達されていないときがある	B	B		・毎月サポートプランの内容を共有する ・会計年度任用職員も話し合いに参加する。参加できない職員に確実に伝達を行ったり、フェイスタ임을活用して共有していく
5 組織運営	(1)組織体制の充実	園務分掌担当者を中心に、見通しを持った企画と連携を意識した協力体制の下、時間を有効に使って進めている	分掌担当者を中心に企画を行い、会議等で内容を周知している。進行表等も活用しているが、取り掛かりが遅いため、準備が直前になりがちである。企画内容が全体に伝わるよう準備伝達を行う	B	A		・打合せノートを活用して確実に共有したり、フリーノートを作成して協力体制がとれるようにする ・一人一人が意識してやるべきことを発信していく。進捗状況が分かるよう行事用の共有ボードを使用する
6 研 修	(1)研修体制の充実	「もっとやりたい」「もっとこうしたい」を支えていくための手立てについて振り返りを行い、子ども達が意欲的に遊ぶ為のきっかけ作りをしている	週3回の振り返りによって子どもが主体的に遊ぶようになり、子どもの姿に応じて環境を整えることを意識している。振り返りに参加する職員は正規のみのため、会計年度任用職員には、子どもの姿や担任の手立てが伝わりにくい面はある	B	B		・振り返りノートの書式や話し合いの内容を検討する ・振り返りは正規、会計年度任用職員が順番に参加 ・外部講師による公開保育は前期に実施し、その後の保育に生かせるようにする
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	子ども達が自分で探求、選ぶ、決めることが出来る環境が用意されている	子どもが玩具や教材を手に取りやすい場所を考えたり、目印をつけたらして工夫するようにした。しかし1年を通して継続して環境整備することができていない	B	B		・「とっておいたあそびや玩具」をいつ片づけるのかを職員で考え共有する ・環境会議を開き、定期的に皆で整理整頓をしたり、片付けの際に最終的に保育者が確認し、整える
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	保護者と子育ての楽しさや喜び、悩みなどを共有し、一緒に子どもの育ちを支えるよう取り組んでいる	どの職員も隔でなく送迎時に保護者と丁寧にコミュニケーションをとっている。園だよりやクラス(便り、アンケート等、コドモンを活用して配信している。保護者との個別面談の機会がないため、取り入れていきたい	B	A		・参加会後に個別面談を実施していく ・フェイスタ임을活用した懇談会を実施していく ・保育説明会を早めに行い、年間で参加会や懇談会の日程を伝えておく
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	小学校のスタートカリキュラムへの参加や羽鳥・薬科地区の園と情報共有や交流を行っている	小中学校や近隣園との交流が増えている。就学への不安軽減やあこがれが持てるように発表会や運動会等行事の練習の様子を見に行く機会を計画的に作っていった。私立園との交流機会はまだまだなので、来年度取り組んでいきたいと考えている	A	A		・年間の予定表を作成し、交流機会を継続していく ・お茶摘み、どんぐり拾い等、私立との交流の機会を設ける(フェイスタimeも活用)
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	地域の自然の中での活動や行事への参加等を積極的に保育に取り入れ、地域の自然や文化、農産物に関わる機会を大切にしている	地域行事への参加や勤労感謝のお招き会など地域との交流を大切にしている。散歩に行く中で自然や農産物にふれ、地域の方とコミュニケーションをとっている。地域の自然や農産物を遊びに取り入れる姿があまり見られないため、意識して取り組みたい	A	A		・子ども達が自由に描き足していく散歩マップの活用 ・地域交流に保護者も参加し、お散歩マップに地域の良いところを書き込んでもらう ・地域にある自然物を保育の中に取り入れる意識を持つ